

編集後記

私の編集委員長としての任期は、今般第31巻第3号の出版とともに終了となります。任期中に投稿された論文数は40編ほどありました。採択率は約0.25であり、我が国の経営関連学術誌にしては少々難関の域に入ると思われます。審査過程を振ってまず頭に浮かんだのは、査読者集団の力量の高さでした。そのため、採択率は低くなりましたが、彼らの知識と経験にもとづく審査のおかげで、採録に至った論文の質はとても高いと評価できます。次に想起されるのは、審査者の優しさです。投稿論文が採録へと至る道標を示す「激励の言葉」を投稿者に贈っているようにも解釈可能な査読講評を数多く読ませていただきました。編集委員長としてとても感慨深い経験をさせていただきました。私自身もその輪の中に入れていただき、第3の査読者として登場したい気持ちに駆られてしまいそうでした。1編の研究論文に対して、3～4度の改定が促されたことも決して珍しくありませんでした。投稿者の側も、落胆して諦めることはなく、厳しいが愛情に満ちたコメントによく対応してくれたものです。本当に嬉しく思います。採録された論文の数は決して多くはありませんが、当学会の機関誌「経営行動科学」に掲載の論文が他の学術誌から引用される件数はこれから高まっていくのではないのでしょうか。そうなることを希望しています。

編集委員長 渡邊 真一郎